

沖縄	0	0%
答えたくない	0	0%
サンプル数	68	

表 8. [Q7-1] あなたはこれまでに、次のような仕事（アルバイトを含む）をしたことがありますか。
あてはまるものをすべて選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
クラブやバーなどのコンパニオン	13	19.1%
ピンサロやファッションヘルス	9	13.2%
デリバリーヘルス（デリヘル）	9	13.2%
ソープランド	6	8.8%
上記のような経験はない	46	67.6%
その他	1	1.5%
サンプル数	68	

表 9. [Q7-2] Q7-1 で風俗の仕事をしたことがあると答えた方のみ

現在も、あなたは次の仕事（アルバイトを含む）をしていますか。
あてはまるものをすべて選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
クラブやバーなどのコンパニオン	3	10%
ピンサロやファッションヘルス	2	7%
デリバリーヘルス（デリヘル）	5	17%
ソープランド	4	13%
上記のような経験はない	11	37%
その他	0	0%
サンプル数	30	

表 10. [Q7-3] Q7-1 で風俗の仕事をしたことがあると答えた方のみ

これまでに働いていた職場で提供していたサービス内容に、次にあてはまるものはありましたか。
あてはまるものをすべて選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
ディープ・キス	13	59%
手こき	14	64%
玉なめ	14	64%
指入れ	11	50%
フェラチオ	13	59%
素股	13	59%
クンニ/クンニリングス	9	41%
アナルなめ	12	55%

口内射精	13	59%
ホンパン/本番	10	45%
前立腺/アナルマッサージ	0	0%
アナルセックス	11	50%
上記のいずれもやっていない	6	27%
サンプル数	22	

表 11. [Q8-1] 全員お答えください

これまでに、(成風俗店などで働く以外に) 個人的に、何らかの性行為をしてお金を受け取った経験はありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
性的なことはしなかったが食事やカラオケなどの付き合いで金銭を受け取った	17	25%
自分の性器を触らせたり、なめさせるなどの行為(挿入なし)をして金銭を受け取った	8	12%
男性の性器を触ったり、なめるなどの行為(挿入なし)をしてお金を受け取った	8	12%
セックスをしてお金を受け取った	17	25%
同席や性行為をしてお金を受け取ったことはない	40	59%
その他	1	1%
サンプル数	68	

表 12. [Q8-2] Q8-1 で何らかの性行為によって金銭を受け取った経験がある人のみ(同席のみを除く)

これまで何らかの性行為をしてお金を受け取ったとき、次のような経験をしましたか。

あてはまるものをすべて選んでください。(※ここでは性風俗店での勤務中を除きます)

カテゴリ	件数	(除不) %
自分の性器を触らせたり、なめさせるなどの行為(挿入なし)	14	67%
男性の性器を触る	16	76%
コンドームなしで、男性の性器をなめる(フェラチオ)	18	86%
コンドームをつけて、男性の性器をなめる(ゴムつきフェラチオ)	6	29%
コンドームなしで、男性の精液を口に含んだり、飲み込んだりする(口内射精)	6	29%
コンドームなしで、セックス(挿入)をする	6	29%
コンドームをつけて、セックス(挿入)をする	18	86%
上記のどれも経験がない	1	5%
その他	1	5%
サンプル数	21	

表 13. [Q8-3] Q8-1 で何らかの性行為によって金銭を受け取った経験がある人のみ（同席のみを除く）

何らかの性行為をしてお金を受け取った時、その相手とはどのようなきっかけで知り合いましたか。

あてはまるものをすべて選んでください。（※ここでは性風俗店での勤務中を除きます）

カテゴリ	件数	(除不) %
以前からの友人・知人	3	14.3%
友だちからの紹介	3	14.3%
路上や飲食店などで、相手から声をかけられた（ナンパ）	6	28.6%
路上や飲食店などで、自分から声をかけた（逆ナン）	1	4.8%
性風俗店での勤務時間以外での客との関係で（連れ出し）	6	28.6%
パーティー（お見合いパーティ、登録制パーティなど）やコンパに参加して	2	9.5%
テレクラ、ダイヤルQ2、伝言ダイヤルを通じて	6	28.6%
出会い系サイトを使って	10	47.6%
インターネットで自分が運営しているブログやサイトを通じて	1	4.8%
招待制のコミュニティサイト（SNS）を通じて	0	0.0%
非招待制のコミュニティサイト（SNS）を通じて	1	4.8%
その他	2	9.5%
サンプル数	21	

表 14. [Q8-4] Q8-1 で何らかの性行為によって金銭を受け取った経験がある人のみ（同席のみを除く）

何らかの性行為をしてお金を受け取ったのは、これまでに何回くらいですか。

あてはまるものを1つ選んでください。（※ここでは性風俗店での勤務中を除きます）

カテゴリ	件数	(除不) %
1回のみ	1	5%
10回以下	9	43%
30回以下	3	14%
50回以下	1	5%
100回未満	1	5%
100回以上	1	5%
わからない	5	24%
サンプル数	21	

表 15. [Q8-5] Q8-1 で何らかの性行為によって金銭を受け取った経験がある人のみ（同席のみを除く）

もっとも最近、なんらかの性行為をしてお金を受け取ったのはいつですか。

あてはまるものを1つ選んでください。（※ここでは性風俗店での勤務中を除きます）

カテゴリ	件数	(除不) %
1ヶ月以内	0	0%
半年以内	0	0%
1年以内	0	0%
その他	8	100%
欠損値	13	
サンプル数	8	

※「その他」の回答（自由記述）：1年以上前（2）、2年以上前（2）、約3年、5年以上前、7年以上前、10年以上前

表 16. [Q8-6] Q8-1 で何らかの性行為によって金銭を受け取った経験がある人のみ（同席のみを除く）

もっとも最近、お金を受け取った時、どんなことをしましたか。

あてはまるものをすべて選んでください。（※ここでは性風俗店での勤務中を除きます）

カテゴリ	件数	(除不) %
自分の性器を触らせたり、なめさせるなどの行為（挿入なし）	3	14%
男性の性器を触る	11	52%
コンドームなしで、男性の性器をなめる（フェラチオ）	10	48%
コンドームをつけて、男性の性器をなめる（ゴムつきフェラチオ）	3	14%
コンドームなしで、男性の精液を口に含んだり、飲み込んだりする（口内射精）	2	10%
コンドームなしで、セックス（挿入）をする	11	52%
コンドームをつけて、セックス（挿入）をする	15	71%
上記のどれも経験がない	1	5%
その他	1	5%
サンプル数	21	

表 17. [Q8-7] Q8-1 で何らかの性行為によって金銭を受け取った経験がある人のみ（同席のみを除く）

もっとも最近、何らかの性行為をしてお金を受け取ったとき、いくら相手から受け取りましたか。

あてはまるものを1つ選んでください。（※ここでは性風俗店での勤務中を除きます）

カテゴリ	件数	(除不) %
30,000円以上	10	48%
10,000円～20,000円以内	8	38%
20,000円～30,000円以内	2	10%
5,000円～10,000円以内	2	10%
5,000円以内	0	0%
サンプル数	21	

表 18. [Q8-8] Q8-1 で何らかの性行為によって金銭を受け取った経験がある人のみ（同席のみを除く）

もっとも最近、何らかの性行為をしてお金を受け取ったとき、あなたが事前に確認したことはありますか。

あてはまるものをすべて選んでください。（※ここでは性風俗店での勤務中を除きます）

カテゴリ	件数	(除不) %
受け取る金額	16	76.2%
お金を受け取るタイミング	5	23.8%
相手がホテル代や個室代（カラオケルームなど）を出すこと	9	42.9%
コンドームを持ってくること	4	19.0%
セックスのときにコンドームを使うこと	12	57.1%
自分がしたくない、あるいはしてほしくない行為（NG行為）について	10	47.6%
どんな性行為をするか	5	23.8%
割り切った関係であること	10	47.6%
恋愛関係に発展する可能性があること	1	4.8%
相手の男性に関する個人的な情報（年齢や性格など）	10	47.6%
相手のケータイ番号	12	57.1%
自分の名前や連絡先などの個人情報を守ってもらうこと	3	14.3%
その他、確認していることがある	1	4.8%
事前に何も確認していない	0	0.0%
サンプル数	21	

表 19. [Q8-9] Q8-1 で何らかの性行為によって金銭を受け取った経験がある人のみ（同席のみを除く）

これまで何らかの性行為をしてお金を受け取ったとき、次のような経験をしましたか。

あてはまるものをすべて選んでください。（※ここでは性風俗店での勤務中を除きます）

カテゴリ	件数	(除不) %
妊娠したかもしれないと、心配した	4	19%
セックスのあとに、性器のかゆみやおりもの（膣分泌液）の変化があった	4	19%
性感感染症（性病）にかかった	3	14%
避妊方法について、相手と思うように話し合えなかった	3	14%
相手の望む性行為に応じなかったため、相手がふきげんになった	4	19%
自分ではコンドームを使いたかったのに、使わずにセックスした	5	24%
自分がコンドームなしのセックスがしたかったので、使わずにセックスをした	1	5%
自分がしてほしくない性行為をされた・させられた	5	24%
セックスのときに、暴力をふるわれた	2	10%
勝手に写真やビデオをとられた	3	14%
勝手に自分の名前や連絡先（アドレスなど）を外部に流された	0	0%

相手から、ストーカー行為（つきまとい）をされた	2	10%
事前に約束していたお金を払ってもらえなかった	8	38%
相手に見下したような態度をとられた	2	10%
相手に、自分の容姿や性格を悪く言われた	2	10%
相手の容姿や性格がいやだった	6	29%
自分の中で、精神的苦痛が残った	8	38%
その他、セックスのときに経験をした	1	5%
あてはまる経験はない	6	29%
サンプル数	21	

表 21. [Q9-1] **全員お答えください**

あなたがこれまでに、仕事上やお金を受け取らないで男性とセックスをした人数について教えてください。

カテゴリ	件数		1と答えた人の具体数	件数
① () 人	46	→	1人	13
②お金を受け取らないセックスの経験はない	11		2人	6
③わからない	11		3人	6
サンプル数	68		4人	2
			5人	5
			6人	2
			7人	1
			8人	1
			10人	1
			15人	1
			18人	2
			20人	2
			30人	3
			50人	1

表 22. [Q9-2] **お金を受け取らないセックスの経験があると答えた方のみ**

お金を受け取っていないセックスをしたとき、次のような経験をしましたか。

あてはまるものをすべて選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
妊娠したかもしれないと、心配した	28	49%
セックスのあとに、性器のかゆみやおりもの（膣分泌液）の変化があった	15	26%
性感染症（性病）にかかった	9	16%
避妊方法について、相手と思うように話し合えなかった	12	21%
相手の望む性行為に応じなかったため、相手がふきげんになった	8	14%
自分ではコンドームを使いたかったのに、使わずにセックスした	21	37%

自分がコンドームなしのセックスがしたかったので、使わずにセックスをした	7	12%
自分がしてほしくない性行為をされた・させられた	9	16%
セックスのときに、暴力をふるわれた	2	4%
勝手に写真やビデオをとられた	0	0%
勝手に自分の名前や連絡先（アドレスなど）を外部に流された	0	0%
相手から、ストーカー行為（つきまとい）をされた	6	11%
相手に見下したような態度をとられた	2	4%
相手に、自分の容姿や性格を悪く言われた	3	5%
相手の容姿や性格がいやだった	5	9%
自分の中で、精神的苦痛が残った	10	18%
その他、セックスのときに経験をした	2	4%
あてはまる経験はない	14	25%
サンプル数	57	

表 23. [Q9-3] **お金を受け取らないセックスの経験があると答えた方のみ**

お金を受け取っていないセックスの経験についてお聞きします。

もっとも最近、セックスをしたのはいつですか。あてはまるものを1つ選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
1ヶ月以内	39	70%
半年以内	4	7%
半年以上前	5	9%
1年以上前	8	14%
欠損値	1	
サンプル数	56	

表 24. [Q9-4] **お金を受け取らないセックスの経験があると答えた方のみ**

もっとも最近、セックスをした男性とは誰のことですか。

あてはまるものを1つ選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
配偶者（法律婚をして一緒に暮らしている男性）	2	4%
同棲者（法律婚をしていないが一緒に暮らしている男性）	7	12%
特定の男性（法律婚もせず、一緒に暮らしていない男性、恋人を含む）	43	75%
不特定の男性（ただし、金銭の授受を伴わない）	5	9%
その他	0	0%
サンプル数	57	

表 25. [Q10-1] 全員お答えください

あなたはこれまでに、エイズ検査（HIV抗体検査）を受けたことがありますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
ある	21	31%
ない	44	65%
わからない	3	4%
サンプル数	68	

表 26. [Q10-2] 全員お答えください

あなたはこれまでに、エイズ以外の性感染症（クラミジアや淋病などの性病）の検査を受けたことがありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
ある	30	44%
ない	37	54%
わからない	1	1%
サンプル数	68	

表 27. [Q10-3] 全員お答えください

あなたはこれまでに、性感染症（性病）にかかったことがありますか。
あてはまるものをすべて選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
性感染症（性病）にかかり、病院で治療したことがある	19	27.9%
性感染症（性病）にかかったかもしれないと思ったので、自分で治した	1	1.5%
性感染症（性病）にかかったかもしれないと思ったが、放っておいたら症状が消えた	2	2.9%
性感染症（性病）にかかったことはないと思う	38	55.9%
わからない	8	11.8%
サンプル数	68	

表 28. [Q10-4] 全員お答えください

あなたは、ふだん次のことをしていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
おりもの（膣分泌液）の色やにおいを気にかけて見る・チェックする	34	50%
自分でコンドームを買う	19	28%
ポーチやバッグにコンドームを常備する	16	24%
性感染症やエイズについての情報を探す・調べる	29	43%
どれもしていない	20	29%
サンプル数	68	

「性風俗にかかわる人々」にとってのコミュニティ開発に有効な手段の検討

東 優子 (大阪府立大学人間社会学部 准教授)

1. 「セックスワーカーのいるまち」¹

わたしたちが暮らすこの街には、
セックスを仕事とする人たちが今日も働いています。

これは、私たちが昨年度から継続して開催している「セックスワーカーのいるまち」というイベントの宣伝文です。「私たち」とは、厚労省エイズ対策事業「日本の性産業施設・産業に係わる人々の支援・予防対策の開発に関する学際的研究」の研究者および協力者であり、イベントはエイズ予防財団の助成を受けた「研究成果発表会」として開催されました(詳細は<http://www.sexba.jp>)。



¹ 東優子 セックスワーカーのいるまち、ふれいす東京 NewsLetter, 60: 1.

実は、申請時に私が考えていたテーマは「Bridging the Gap: 研究成果をコミュニティに還元していくために」という、「当事者コミュニティ」を意識したものでした。ところが、出演者らと企画について話し合うなかで、「コミュニティ(単数形)じゃなくて、コミュニティーズ(複数形)じゃない?」「そもそも性風俗に係る人々にとってのコミュニティって何(どこ)?」といった議論があり、結果、「まち」というコンセプトが誕生したのです。

日本にも、かつては「赤線」で働く女性たちの組合が存在していました。新吉原女子保健組合は機関紙まで発行しており、そこには「組合活動の報告、性病予防のための手引きや覚せい剤の撲滅のよびかけなどの記事に加えて、詩、小説、俳句、映画案内あり、紙上相談あり、と、当時の売春婦たちの暮らしや思い」が描かれています。1956(昭和31)年に「売春防止法」が制定される際には、こうした組合が全国的な反対運動を展開したといえます。

売春が非合法化されて組合は解散しても、いろいろなところで、いろいろな形で、女性たちは連帯し続けてきたことでしょう。しかし、たとえばエイズ・パンデミックによる負の影響をコミュニティの連帯・権利運動の活性化へと昇華させたゲイ・コミュニティと比較すると、同じく多大な影響を受けた性風俗業界には、新宿二丁目や大阪・堂山町に相当する「場」も、akta や dista と呼ぶコミュニティ・センターもありません。

ワーカー・アイデンティティが「着脱可能」で、性的少数者のありようとは異なるがゆえの当事者ニーズの違いなど、説明要因は様々に考えられます。いずれにしても、当事者のリアリティと固有のニーズをとらえるためには、彼らの多くが埋没する「まち」そのものを見つめ直すことから始めよう...そんな思いが「セックスワーカーのいるまち」には込められています。

ワーカーとお客、ワーカーと経営者、
異業種のワーカーどうし、ワーカーとワーカーではない人、
コミュニティと行政と医療機関などの間にある『ギャップ』
に、あきらめたり目をそらしたりすることなく...

² 『復刻「婦人新風」新吉原女子保健組合機関紙』(明石書店) 深江誠子の解説文より

NGOとして、あるいは個人として、地道な活動を継続してきた人々がいます。94年の「横浜・国際エイズ会議」で、日本のワーカーとして初めて発表した柿河モモコさんが仲間と始めた「SWEETLY (Sex workers! Encourage, Empowerment, Trust and Love Yourself)」や、1999年に誕生した「SWASH (Sex Work and Sexual Health)」(現代表・要友紀子さん)の活動は、近年のそうした一例です。若い世代では、ブログやホームページを中心に活動を展開する個人も増えています。SWASHが設立当初から現在まで私たちを含む3つの研究班にかかわり、重要な役割を果たしてきたように、彼らの存在、彼らの財産である「信頼関係に基づくネットワーク」は、研究班にとっての必要不可欠な基盤となっています。ワーカーと活動をともにしてきた松沢呉一さんなど、ジェンダーを超え、業種を超えた協力者たちの存在も特筆すべきで、彼らとの出会いが、さらなるネットワークの広がりや活動の展開につながっています。

こうした出会いに感謝しつつ、私たちが見つめる先にある、共通した願いに思いをはせつつ...

(以上、「ぶいす東京 NewsLetter」掲載分の再掲)

2. 性風俗産業に係るキーパーソンへのインタビュー

性風俗業界のキーパーソンとのネットワーク、聞きとり調査を通じて、「コミュニティ開発」の可能性を検討したところ、1) セックスワーカーNGO および個人の活動の歴史から、活動の阻害要因の一部が明らかとなり、今後の対策と提言の基礎資料が得られた、2) 保健所や風俗求人雑誌メディア、プロモーター、外国人支援団体とのネットワークにより、今後の協働の可能性が検討された。

3. ホームページ「sexba.jp (せくすばっ) の運営



MSM などの性的マイノリティ・コミュニティとの違いを踏ま

えたコミュニケーション・プラットフォームとしての Web サイトの利用可能性を検討すべく「sexba.jp (せくすばっ) (http://www.sexba.jp) を立ち上げたところ、開設から 2 か月間 (10 月末～12 月末現在) で、セッション数 7,212、閲覧ページ数 24,313 を数えている。平均滞在時間が 2 分を超えていることから、少なくとも 1 コンテンツは閲覧されていることが推測される。過去 1 か月間の 1 日平均セッション数は 134 で、多い日には 200 を超えており、新規セッション率 80.20% からも、新規閲覧者の順調な取り込みが推測される。

4. 研究成果とネットワーク

匿名性・不可視性・接近困難性をもつ個人・集団を対象とするプログラムの試行と展開において、本研究が目指すのは当事者あるいは当事者について熟知する者を含めた職歴・学際的なメンバーが参画する「コミュニティ参加型アプローチ」である。研究課題の進行に合わせて、研究班のキーパーソンとのネットワークはさらに進んでおり、コミュニティ参加の主意に沿う、実践研究の基盤の確立は、過去に同様の課題に取り組んできた研究班に類をみないものとなっている。本研究班のテーマである「性風俗施設・産業に係わる人々」は、どの立場 (接客女性、顧客、経営者) であれ、社会的逸脱のラベリングにより社会的不利益を受けることに、うんざりし、反発している人々であり、保健医療サービス提供者にとっての「接近困難層」である。本研究が重視する「コミュニティ参加型アプローチ」は、「個別施策層」あるいは「接近困難層」の人権や社会的背景に考慮した研究モデルを示すものである。

とくに、高収入アルバイト情報誌との協働による調査の実施は国際的にも報告事例が確認されず、性風俗産業等への参入に関心を寄せる女性および関係者 (顧客・経営者など) に当研究班の運営する情報サイトの閲覧を促すことで、彼らの準備性に寄与する情報が発信できる点は、接近困難層を対象とするコミュニティ開発の新規モデルとして注目に値する。

今後はさらに、ガイドラインの策定およびそれに続くパイロット・プロジェクトの試策を通じて、当事者であり「接近困難層」として捉えられてきた人々が関与し、意味をともなう「コミュニティ参加型」アプローチの実現を促進していきたい。

女性向けイベント「おいしいセックス？ 男性調査・女性調査から見える 金銭の授受を伴う性行動とHIV感染への脆弱性について」成果報告

野坂 祐子 (大阪教育大学)

本年度、財団法人エイズ予防財団 平成 20 年度エイズ対策研究推進事業「研究成果発表会 (国民向け)」の助成を受け、本研究班として二つの成果発表会を東京と大阪でそれぞれ行ったうち、東京で開催したイベントの対象者を女性に限定し、女性のセクシュアルヘルスについて考え、発信する場とした。

以下、「おいしいセックス？ 男性調査・女性調査から見える金銭の授受を伴う性行動とHIV感染への脆弱性について」女性向けイベントの当日プログラム及び実施内容を報告する。



【当日プログラム】

調査研究報告(13:30~)

分担研究者 大阪教育大学 野坂祐子

第一部 (14:00~)

◎トークショー (1) “もっと楽しく♪オシャレに♪セックスしようよ!”

ロマンスライター/LOVEプロデューサー
ピンク先生 氏

◎トークショー (2) “オンナの立場とワタシのセックス”

Love Piece Club 代表 北原みのり 氏

◎トーク×トーク “おいしいセックスを語る”

ピンク先生 氏 × 北原みのり 氏 × 聴き手

第二部 (15:15~)

ワークショップ “新性器アートを作ろう!”

Sexba.管理人・元風俗嬢 桃河モモコ 氏

1. 実施要旨

平成 20 年度エイズ対策研究推進事業「研究成果発表会 (国民向け)」 「おいしいセックス？ 男性調査・女性調査から見える金銭の授受を伴う性行動とHIV感染への脆弱性について」

1) 開催日:平成 21 年1月 12 日 (月・祝日)

2) 場所:飯田橋レインボービル中会議室

3) 発表内容

(1)エイズ予防財団 (川島ちはる様) より挨拶

(2)はじめに (東優子/大阪府立大学)

本日の発表会についての概説。平成 20 年度エイズ対策研究推

進事業「研究成果発表会 (国民向け)」についての説明。

「日本の性娯楽施設・産業に関わる人々への支援・予防対策の開発に関する学術的研究 (主任研究者 東優子) の概要の説明。

(3) 研究報告:「青年期女性における金銭が介在する性行動とセクシュアルヘルス」の概要 (野坂祐子/大阪教育大学)

・青年期女性の性行動と性風俗産業における「素人/女人」のポータダレス化について

・金銭を介在する性行動の調査結果の前年度結果と今年度調査の中間報告

・女性のセクシュアルヘルスをめぐる問題提起 (ほか)

4) トークショー内容

トークショー (1) “もっと楽しく♪オシャレに♪セックスしようよ!” (ロマンスライター/LOVE プロデューサー、ピンク先生氏)

・セックスにおける「かっこよさ/かっこ悪さ」からみる女性の性行動

・男性への依頼ではなく交渉としてのセックスのあり方についての具体的なしなめかけと提言

トークショー (2) “オンナの立場とワタシのセックス” (Love Piece Club 代表、北原みのり氏)

・女性のためのセックスグッズの販売企画について

・女性というジェンダーがセックスを困難にすることへの話題提供

・調査結果に関するコメント

トーク×トーク “おいしいセックスを語る” (ピンク先生 氏×北原みのり 氏×聴き手)

・女性にとってのコンドーム使用に関するコメント

・女性がセックスで主導権をとることの困難さと工夫について

5) ワークショップ内容

ワークショップ “新性器アートを作ろう!” (sexba. 管理人・元風俗嬢、桃可モモコ 氏)

・粘土を使って、自由なイメージネーションで性器をつくるワークの実施

・ファシリテーターの性風俗の体験から、風俗嬢の連携の経緯等についての話題提供

・参加者が製作した性器アートの発表と共有

2. 来場者からの評価

1) 来場者

参加人数は45名であった。

2) 来場者の属性

アンケート回答者38名(来場者の約84%が回答)による来場者の属性等は、以下の通りであった。

(1) 年代

20代(13名)、30代(23名)、40代(1名)、50代(1名)

(2) 回答者の特性

性風俗産業従事者(3名)、セックスに関する事業や執筆活動等(9名)、医療・心理・福祉関係(3名)、NPO関係(3名)、学生(1名)、その他(23名:自由記述「NPOではないがマイノリティ活動」「アパレル」「フリーライター」「会社員」「自営業」「司業」「役者」「ライター」「無職」)

(3) 情報の入手経路

友人から教えてもらった・誘われた(24名)、開催告知のメールが届いた(6名)、置かれているチラシ(ポスター)を見た(2名)、研究班のサイト(sexba.jp)を見た(2名)、インターネット(mixi)など(7名)。

3) 会場の雰囲気や居心地の評価

「非常によい」(19名)

理由:「女だらけでエロな話をする機会が全然ないので聞いてすごくストレスが飛んで感じました。またぜひやって欲しいです。今回来て良かった!!」「かた苦しくない雰囲気がよかったです。」「女子限定の安心感。おしゃれな女性が多くて居心地良かったです。」「チラシのデザインがかわいい。会場も女の子らしいお雰囲気(絵やチラシなど)でとても新鮮でした。(普段よくいくセミナーはお堅いので...)」「オープンにSEXについて語り合える場がとていいなと思いました。」「研究発表会にありがちな堅苦しい敷居の高さがなく、開かれた明るい会場でした。」「机にかわゆるパンフなどがかわいく置いてあったり、女性が楽しめる雰囲気でした。」

「よい」(15名)

理由:「初めての参加でしたので想像がつかなかったのですが、とても和やかな雰囲気で安心していられました。またこのような機会があれば参加したいと思えました。」「アクセスがよい。落ち着いた雰囲気の部屋で◎※後ろの席からもスクリーンの下側がきちんと見えるとうれしいですね」「途中参加でした。最初からだ」「非常によかったです。」「和やかな雰囲気で堅苦しくなく楽しく過ごせました。」

「ふつう」(3名)

理由:「もっと参加者が入っていると思っていました。残念。」

4) 【個別評価】女性調査の報告(野坂祐子)について

「非常に良い」(12名)

理由:「(まあ今回の調査は出会い系が主なのでしょうか)金銭授受があるグループでも先払い(店)と後払い(登録制、個人)でも違うし、先払いの中でも場所(ソープ:店内かどうか、ホテル・デリヘル:事務所からの距離)によって違うと思うのでその分析もしてみたい」「金銭授受を伴わない場合のsefer sexのというのはものすごく納得できる結果ですが、データとして示されたのはすばらしいことだと思います。」「私も来場する前にアンケートをしてきましたが、細かくつっこんだ項目、たとえば、SEXで嫌な経験をした話といい思い出をした話の調査も入ってくると面白いかなと思いました。」「興味深い調査結果が提示されていました。」

「よい」(19名)

理由:「金銭のからむセックスは今まで考えたことがなかった

ので、数字を見て現状ってこうなんだと知ることが出来た。私も妊娠を心配することが多いうちの一人です・・・」 「スクリーンの文字が小さくて見にくかったのと、時間が短かった。」 「もっとくわしく内容を知りたいです。」 「もう少しデータの回答者が多いと納得しやすいかと思われた為」 「簡潔で分かりやすかった。」 「意外な報告もあったので、自分の認識が少し変わったと思う。」 「わかりやすく聞きやすかったです。」 「もう少しパワーポイントの字が大きかったら読みやすかったかも・・・」 「数が少ないのが残念」

「ふつう」 (4名)

理由：「2000 人クラスのデータならぜひ毎年続けて、有意義のある研究にしてください！」

「悪い」 (1名)

理由：「金銭のやりとり“あり”“なし”の大きな違いや心の動きが数字のみで分かりづらかった。『しちやいけないうこと』というくくりで実感したかった。」

「不明」 (2名)

理由：「遅刻して聞けなかった」

5) 【個別評価】：トークショー① (ピンク先生氏)

「非常によい」 (26名)

理由：「男性にリードされがちな日本人の女性、もっと自分から積極的にリードしていくべき！「コントローラーを渡さない」とても勉強になりました！イマジネーションセックス試してみたいです」「コントローラーは渡すまじ！！学びました」「もっとききたかった。笑が多いし、ためになりました」「セックスで流されないうのが、凄く大事だと思いました。男のイナリが女らしいとかカワイイとかは、そろそろ時代おくれだとみんなにも教えたいです・・・」「納得できるポイントが多かった」「楽しく聞かせていただきました」「“ダサいセックスはしない”というのは貴重ななあと思いました」「誰にでも分かる“たとえ”がさすが、数多くの記事を手がけているピンク先生！分かりやすく、しかも楽しいです。実例をはさむのがさすがです。生の声はとても説得力がある。」「これからの人生、私がコントローラーを握ります！」「もっと聞きたかった！！コントローラーにぎります(笑)」「実体験からの話がわらえて面白かっただけでなく、色々な sex があるんだなあ・・・とあらためて楽しむ価値に気づきました。」「イマジネーションを語ってくれたこと。」「先制点を取る！』『コントローラーを死守！』『イマジネーションを大切に！』等わかりやすく面白お話を聞けてよかったです。」「先制点とイメージという話が面白かった。」「話し方も魅力的で、とてもユーモアと実用性にあふれ、面白かったです。」「実にジッセン的！」「視点がおもしろい」

「よい」 (10名)

理由：「脳の動きから精神に働きかけるもの、分かりやすかったです。時間がもっとあれば」「笑えた。一般女子って色々考えて大変なんだなあと思った。」「おもしろく、楽しかったです！」

「不明」 (2名)

理由：「イマジネーションセックス」のお話が素敵だと思いました。」

6) 【個別評価】トークショー② (北原みのり氏)

「非常によい」 (30名)

理由：「とても興味深いお話でした。普段疑問に思っていたことを実際に北原先生が実践されていて感動した。」「FIMの話が聞けて、普段聞かないはなしがきけてよかったです。」「男のサービスサポートってのが妙に納得しちゃいました。思いっきり楽しみたいのに、全然気を遣いまくりで疲れちゃいますよね」「楽しくなる話でした。」「ポリティカル・コレクティブ優先で、“自分が楽しむこと”があとまわしになってしまう感覚、わかるなあと思いました。」「もっと時間があれば・・・お話を聞きたかった！！」「おしゃれで楽しいsex。聞いているのがすでに楽しかったです。」「北原さんのお話を聞くのは初めてだったのですが、文章を読んだときとは違った印象を受けました。(フェミの印象が強かったので「厳しい人だと思っていました)みのりさんの性の歴史を聞いて楽しかったです。」「いろんな経験から語られる独自の視点からの話がとても参考になりました。」「性産業に関わっている人の社会的位置づけなど、日本の性(特に女性の性)をとりまく状況の核心をついていたように感じました。」「私のパートナーもFIMですが、そういうパートナーとのセックスに関する情報って聞こえてこないのうれしかったです。」「経験談をあからさまにして下さって好感が持てた。」

「よい」 (5名)

理由：「性に関してオープンでハッピーなことととらえよう、その方が世の中もっと幸せになる！そう思いました。この方のトーク良かったです。」「買う行為はなかなかできないし、そこで気を遣ってしまったという情けないトホホ話も常人には出来ない。とてもおもしろかった。」「とても聞きやすかったです(その他)

「不明」 (3名)

理由：「男性に対して敵対心のようなものを持っているので、共感できました。」

7) 【個別評価】トーク×トーク (ピンク先生氏×北原みのり氏×聴き手)

「非常によい」 (15名)

理由：「普段聞けないような実体験・実話を聞いて「うんうん」「あるある」と思える内容が多くて楽しかった。イマジネーション

ンによるセックスって大事だなと改めて思いました。あと自分をもっと解放すること、これも大事だな。「自分の話」をしてくださったのが、すごくよかったです。「イメージネーション、大切だと思いました。」「リラックスした感じ。『ガールズトーク！』』といった感じが良かったです。」「色々興味深い話が聞けてよかったです。もっと時間があればよかったです。」

「よい」(14名)

理由：「時間が短かったですね…残念」「ピンク先生の素直な体験談と北原さんの冷静さと相性が良かったと思います。ガールズトークにまじりつつ、それでいんだよとさとされた気分になりました。」「東さんのコメントが良かったです。」「ガールズトークは聞いていて楽しいです。」

「ふつう」(4名)

理由：「テーマがいまいちブレた。」「会場から質問が上がったりしたらよかったですかと思いました。」

「不明」(5名)

理由：「いきなりはじまったので、前ふり&まとめ等あるとききやすいと思います。」

8)【個別評価】ワークショップ～新世紀アートを作ろう！～(桃河モモコ氏)について

「非常に良い」(16名)

理由：「ラストに近づくにつれ、自分の作品への感情が迷いから愛着になりました」「生まれて初めての体験！こんなに明るくて楽しくマンコについて触れることがなかったのでインパクトありました。」「楽しみました。イメージネーションは好き」「つくっている間にきけた話がよかったです。まんこについてあまり形とか考えることがなかったので楽しかった」「こんなの初めて！すごく楽しかったです。ネンドなんて何年ぶりかな…今度はチンコも作りたい」「トークだけではなく、参加しているムードがとても楽しかった。」「きもちよかったです。」「男性器と女性器がメタモルフォーゼ。わかっていたつもりだけど、あらためてモモコさんにいわれて『おへっ』と思いました。」「こういうねんど細工をするのは久しぶりだったので楽しかったです。」「楽しかったです」「参加型でそれぞれが自分を表現する機会があってよかったです。」「自分が自分の性器の形などよくわかってなかったな〜と気づきました。日頃、女性性器の話や友人の性器を見たり、写真などにふれる機会がないので、自分の身体のことなのに…性器が身近に感じられる、明るく楽しいワークショップでした。もっと日頃から性器(自分の身体)を当たり前気にしていきたいです。」「楽しかったのと、改めて自分のセンスの無さに笑ってしまいました。」

「よい」(9名)

理由：「つくりもの手下手だと思ってましたが、意外と楽しかつ

たです。手を動かしながらのんびり聴くトークもリラックスできてよかったです。」「美術が苦手すぎて…でも、ねんどをこねているのは気持ちよかったです。」「日頃しないことなので、少し難しかったけど楽しかったです。」「凄く久々にねんどをさわったので楽しかった。桃河さんのお話をもっと聞きたかったです。」「とてもおもしろかった。モモコ氏の話をもっと聞きたかったです。」

「不明」(11名)

理由：「きもちよくなりました。」

9) 自由意見

「楽しかった。時間が足りないくらい。」「盛りだくさんで楽しい時間でした。」「セクシャル・ヘルス面の活動はすごく活発になってきて嬉しいです！私も参加したい。私は労働問題に関心があります。運動史からアプローチしたくて研究できる場を探しています。：男性対象にもやってみよう！(啓発を男性にこそ！)または女子対象に高齢&ID 男性とどう気持ちよくする方法:セックスワーカーの SNS・Ange でも告知すればよかったですと後悔：買っ側でも男と女では「気を遣う」理由が違うように思う。男は『女に気に入られる。好かれて。モテている。男のプライドと感じるような喜ばせる能力のある自分(自己イメージ)』を結局買っているのだと思う。女は『男に愛される価値のある自分』かな?」「司会がとて楽しかったです」「婦人科でピルの被害を知りました。ピルのみでなく、女性の心や体に負担になることが多くて、『では男性のダメージは?』と考えていました。(実際環境ホルモンに弱いのは男性だったりするんですよね。)性に関しても、女性が被害者意識を持たずにすむような性生活、生活、男性との関わり合いを生きていけるような社会になって欲しい。そうになりたい。」「話をきいて、会場の人たちの話もきいてみたいなーと思いました。」「他人の評価とか世間を気にしているところでセックスを楽しめていい気もします…。己に正直であること、体に素直であることが美味しいセックスの基本にあるんじゃないかと。モモコさんのお話と声がとても素敵でした。もっとききたいなあ。」「こういうふうオープンにSEXについて話したり出来る機会が日常に増えていったらいいなと思いました。私はセックスワーカーですが、身近な人々から少しずつ語りの場作りができていったらいいなと思います。今日はどうもありがとうございました。」「女性とセックスについて、ポジティブなメッセージがあふれていて、聞いていてとてもエンパワーされました。(もう少し、ヘテロセクシュアルではないオーディエンスも意識した情報があっても良かったかと思いますが)またこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思います。本当にどうもありがとうございました。」「イベントがおもしろかったです。ありがとうございました!」「また参加したいです!」

3. 総括

研究報告「青年期女性における金銭が介在する性行動とセクシュアルヘルス」の概要(野坂祐子/大阪教育大学)では、金銭を伴う性行動の現状について2年間にわたる調査の結果を報告した。性風俗店舗等に属さず、性的行為により金銭を受け取る性行動の実態については、これまで十分な調査が行われていない中、女性の性行動と性の健康を現実的・多面的に捉えるうえで貴重な研究データであると思われる。会場の感想からも、調査データにより身近な体験等が具体的に示されたことについて、よい評価が得られた。また、継続的な調査を求める声もあった。調査を一般に公開し、還元することで、こうした女性の実感や希望が把握できることは、研究成果発表会の有益な成果であったと思われる。課題として、調査の協力者数を増やし、よりわかりやすい形で公開していく工夫が挙げられた。

「トークショー(1)“もっと楽しく♪オシャレに♪セックスしようよ!”」(ロマンスライター/LOVEプロデューサー、ピンク先生 氏)では、セックスの場での女性が主導権を握るかがセクシュアルヘルスを守るための鍵であるかが、具体的な事例とともに話され、多くの参加者の共感を呼んだ。女性の性行動は、しばしばジェンダー関係のなかで受動的にふるまわざるを得なかったり、社会から期待されるジェンダー役割が重圧になったりしてしまうことがある。こうした現状を的確に問題視しながらも、そうした問題を打破していくための楽しいしつけや工夫が述べられたことは、参加者にとって大いにエンパワメントとなったことが、アンケート結果からも示された。

「トークショー(2)“オンナの立場とワタシのセックス”」(Love Piece Club 代表、北原みのり氏)では、登壇者の実体験やセックスグッズの販売業務の経験から、さまざまな女性の性の困難性について、具体的に語られた。女性というジェンダーをもちながら、セックスを楽しもうとするときの内的・外的な弊害について話されたことは、参加者にとって共感するところが多かったようである。アンケート結果も非常に好評であった。

「トーク×トーク“おいしいセックスを語る”」(ピンク先生 氏×北原みのり 氏×聴き手)では、コンドーム使用についてのそれぞれの意見や、イメージーションを用いたセックスのありようについて話題が広がり、参加者にとっても興味深く聞くことができたようであった。女性だけの場で、女性が自分のセックスについて安全に話すという「ガールズトーク」の形式は、多くの参加者にとって好評であった。

「ワークショップ“新性器アートを作ろう!”」(sexba. 管理人・元風俗嬢、桃河モモコ 氏)では、7色の粘土を用いて、自由に性器を作るという参加体験型のワークが行われた。参加者の多くは、粘土工作の珍しさに加え、イメージーションを広げて性器を捉えたり、創り上げたりするという作業を楽しんだようであり、

非常に好評であった。製作中は、進行役の桃河氏が性風俗をとりまくさまざまな問題について話題にしたり、他のスピーカーらとセックスに関するトークを展開したりして、参加者はそれらのトークも楽しんだようであった。さまざまな作品が仕上がりと、女性が自分自身のからだに目を向けたり、からだをポジティブに捉えたりすることができたと思われる。こうした取り組みは、女性自身のエンパワメントとしても非常に効果的な手法であり、参加者それぞれが今後、自分のセクシュアルヘルスを大切にしていけるためのしつけとして機能した可能性もあると考えられた。

全体として、「女性のための、女性による、女性のセクシュアルヘルスのさまざまなしつけ」を実現する企画として、参加者から高評価を得られたことは、女性を主体とする予防啓発への社会的ニーズの高さを示していると考えられた。とりわけ、「セックスを楽しく語りながら、女性の体験や工夫を共有していく」という部分に、共感を示した参加者が多く、ガールズイベントの有用性が可視化された。また、研究成果で示したような金銭が介在する性行動については、十分な研究の蓄積や社会的認識がない現状があることから、今後さらに研究を展開させるとともに、引き続き、このような研究成果の社会的還元を持つことを願う次第である。

資 料 編

HIV予防対策と接近困難層

—— ハーム・リダクション事例に学ぶ ——

東 優 子

大阪府立大学人間社会学部

要 旨

静注薬物使用者 (IDU) とセックスワークに係る人々 (SWおよびその顧客) は、MSMに次いで、現在 (サハラ以南アフリカ諸国を除く) 世界で最も高いHIV感染のリスクに曝されている人々である。彼らに共通する問題は、薬物使用や売買春に対する「禁止政策」が有効なHIVサービス (ケアや治療を含む) を提供する上での阻害要因となり、結果として彼らの脆弱性を高めている点にある。「ハーム・リダクション」は、禁止政策と矛盾するにもかかわらず、「接近困難層」と医療・福祉サービスをつなぐゲートウェイとなり、有効なHIV予防対策として注目され、実践されている。本稿では、日本でまだ馴染みの薄いこの実用主義的アプローチの成果と課題を整理し、その汎用性について検討する。

キーワード：ハーム・リダクション HIV/AIDS 薬物使用者 セックスワーカー 接近困難層

緒 言

1980年代初頭に始まる人類のHIV/AIDS¹との闘いは、近年、ようやく明るい兆しが見えてきたとされる。世界全体でみた場合の新規感染者数は減少傾向にあり、治療へのアクセスが拡大したことを一因として、HIV関連疾患による死亡者数は減少傾向にある。しかし今日でも、世界には3,300万人 (3,000~3,600万人) のHIV陽性者が暮らし、約300万人が治療を受け、毎日7,400人が新たに感染していると試算されており (UNAIDS, 2008)、HIV感染症が公衆衛生上最も重大な課題であり続けていることに違いはない。

現在、世界の多くの地域でHIV感染への脆弱性 (vulnerability) が最も高いとされるのは、「男性とセックスする男性」 (Men who have Sex with Men: 以下、MSM)²、「薬物静注者」 (Injection Drug User: 以下、IDU)³、「セックスワーカー」 (Sex Worker: 以下、SW)⁴である。社会的スティグマや偏見に加え、世界の2/3の地域で施行あるいは運用されている法律や規制が、彼らのHIVサービス (治療・ケアを含む) へのアクセスを阻害する要因となっている (UNAIDS, 2008)。“One World, One Hope” (ひとつの世界、ひとつの希望)⁵を掲げながらも、HIV予防対策の現場には、社会規範や倫理をめぐる異なる価値観の対立というもうひとつの闘いが存在している。

1. HIV感染への脆弱性 (vulnerability)

...stigma, silence, discrimination, and denial, as well as lack of confidentiality, undermine prevention, care and treatment efforts and increase the impact of the epidemic on individuals, families, communities and nations...

(スティグマ、沈黙、差別、拒絶ならびに秘匿性の欠如は、予防・ケア・治療のための努力を阻害し、個

人・家族・地域社会および国家に対する影響を拡大させる)

「HIV/AIDSに対するコミットメント宣言」第13段落

2001年5月、ニューヨーク国連本部において、国連エイズ特別総会 (United Nations General Assembly Special Session on HIV/AIDS: UNGASS) が開催され、上記「HIV/AIDSに対するコミットメント宣言」(Declaration of Commitment on HIV/AIDS) が採択された。「宣言」は法的拘束力をもつものではないが、各国政府は対策の具体的な目標を立て、市民社会の協力を得ながら達成していく義務を負っている。各国における重点課題は、HIVの感染率を最も強く抑え、最も高いリスクに曝されている人々への対策であり、地域の社会的・政治的・経済的状况によって脆弱性が最も高い集団は、以下の2つのカテゴリーに大別される (UNAIDS, 2008)。

ひとつは、サハラ以南アフリカ諸国における「一般人口」に拡大したHIV感染拡大である。この地域における死亡原因の第1位はエイズであり、HIV感染者数は世界の67%、2007年の死亡者数はその72%を占める。特に女性患者数は男性のそれを上回り、世界でHIVに感染している女性 (15歳以上) 1,550万人の、実に77% (1,200万人) がこの地域に暮らしていることから、「アフリカのAIDSは女性の顔をしている」(In Africa, AIDS has a woman's face) とも表現される。もうひとつの感染拡大カテゴリーは、サハラ以南アフリカ諸国以外の世界で起こっている現象である。世界のほとんどすべての地域において、HIV感染への脆弱性が最も高い集団 (vulnerable group) として指摘されるのは、MSM、IDU、SW (およびその顧客) である。

日本では、「感染の可能性が疫学的に懸念されるながらも、感染に関する正しい知識の入手が困難であったり、偏見や差別が存在している社会的背景等から、適切な保健医療サービスを受けたいと考えられるために施策の実施において特別な配慮を必要とする人々」に注目し、これを「個別脆弱層」と定義する (後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針「エイズ予防指針」2006年3月改訂、同年4月1日より適用)。「個別脆弱層」としては、若者 (性に関する意思決定や行動選択に係る能力の形成過程にある青少年)、外国人 (性的健康や文化的健康のある外国人)、MSM (性的指向の両面で配慮の必要な同性愛者)、SW (性風俗産業の従事者及び利用者が挙げられており、これらについては「人権や社会的正義に最大限配慮したきめ細かく効果的な施策を道教的に実施することが重要」とされている)。

2. 脆弱性の高い集団 (vulnerable group) とHIV予防対策の実現

(1) MSM (Men who have sex with men)

1981年に世界で初めて男性同性愛者の発症事例が報告されて以来、MSMは最も高いHIV感染リスクにさらされている集団であり続けている。当事者コミュニティを中心に様々なHIV関連サービスが開発されてきたが、予防啓発や支援に向けた努力は、同性愛者に対する根深い差別・偏見、社会的スティグマによって阻害されている (東, 2008a)。国連エイズ合同計画 (以下、UNAIDS) によれば、「自国でHIV抗体検査やコンドーム配布など、HIV関連サービスの受給が可能であることを認識しているMSMの割合」に関する27ヶ国の平均は40.1%であり、SW (60.4%) やIDU (46.1%) と比べても低いのである (UNAIDS, 2008)。

アフリカにおけるエイズの「劇」は女性ならば、日本の「劇」はMSMである。2007年12月現在、HIV感染者9,426件、AIDS患者4,468件の合計13,894件のうち、全体の41%に当たる5,761人がMSMである (厚生労働省エイズ動向委員会, 2008)。UNAIDSが「HIV感染予防のための努力は女性・少女を守ることに失敗している」とする声明を出したことに憤りを感じれば、日本は明らかに「MSMを守ることに失敗」してしまっている。

「おんな子どもを守る」といういかににもパターンナリスティックな表現は、「男が選いをつくる」(Men make

a difference) という2000年の世界エイズ・キャンペーンがそうであったように、「エイズの女性化」(Feminization of AIDS) という期間についても、その主な原因ともいえる家父長制社会にコミットメントを促すための有効な戦略として利用されている。MSMの場合しかし、「MSMを守ることに失敗している」と断言したところで、おそらくは社会 (特に政治家) の注意と関心を引き出すことは期待できないと想像されるところに、国内のMSMを取り巻く現状が現れている。女性や子どもとも異なり、彼らがHIV感染に最も脆弱な集団であることを示す明白なエビデンスが存在しない。政治の場はおろか、各種メディアでもこれが取り上げられる機会ほとんどない。MSMの人権についてはそれが社会を保障すべき対象という認識が共有されておらず、その背景には、MSM (あるいは以下に述べるSWやIDU) が直面する問題に向けた「セックス (私的) 問題」あるいは「ライフ・スタイルの問題」という社会のまなざしと、それに影響する「自業自得」論が見え隠れする (東, 2008)。

(2) SW (Sex Worker) および顧客

セックスワークに従事する人々およびその業態が多様であることから、SWの数を推定することは非常に困難である。しかし例えば、オランダでは15-49歳の女性の0.6%がセックスワークに従事し (UNAIDS, 2002a)、アフリカ諸国では成人女性の44-87%が何らかの形でセックスワークに従事していると推計されている (UNAIDS, 2006a)。

MSM同様、SWが置かれた社会的状況やそれ起因する社会的不利益は、HIVサービスの提供を阻害し、HIV感染への脆弱性を高めている。売買客が合法化されているオーストラリアやメキシコ (国内の1/3で合法) など、SWの存在が広く認知され、国家政策として包括的アプローチが実施されている地域での女性SWの感染率は1%と低く抑えられている (UNAIDS, 2002a)。その一方で、人身売買でインドのムンバイに運ばれたスバルールASW (女性) の実に半数、無事母国に帰還した女性でも38%がHIVに感染しており、インドのカルナタカ州では、自宅セックスワークをしている女性の16%、新婚226%、売春宿で働く女性の47%がHIVに感染していると報告もある (UNAIDS, 2008)。

セックスワークは世界のあらゆる地域に存在し、その主な顧客は「一般の」男性である。地域によってはその利用率は顧客に高く、2007年のパプア・ニューギニアでの調査では、トラックの運転手と軍人の60-70%、海岸労働者の33%が過去1年間に買春を経験している (UNAIDS, 2008)。地域によっては、結婚している一般女性における感染率が女性SWにおける感染率よりも高いという事実もあり、SWを危険視することについては、「問題は、ピア教育ができていないワーカー自身にあるのではない」(Weitzer, 1999) という批判もある。一方で、実際にSWの感染率を下げるのが一般人口における感染率を下げることにつながることを示すデータも存在している。タイでは1990年代前半に平均30%といわれたSWのHIV感染率が半分に減少したことに連動して、成人のHIV感染率は以前の1/10まで減少した (UNAIDS and Thailand Ministry of Public Health, 2000)。また、約8,000人がセックスワークに従事するとされるモンパサ・カンパサ・ウガンダをつなぐアフリカ道路網 (Trans-African Highway) において、SWのコンドーム使用率を90%にすることができれば、HIV感染率は、現在の1.3%から0.4%まで下がり、年間2,000-2,500人の新規感染を予防できると試算されている (UNAIDS, 2008)。

(3) IDU (Injection Drug User)

薬物使用者は世界に1,100万-2,100万人と推計されており、若者を中心に増加傾向にあると指摘される (UNAIDS, 2008)。日本のエイズ動向調査では「輸注薬物産用」を経路とするHIV感染者は全体の1%未満に留まっているが、世界の全感染者数の約10%、サハラ以南アフリカ諸国およびカリブ諸国を除くと30-40%はIDUで占められており (UNODC, 2008)、特にロシア (85%) をはじめとする東欧諸国、東南アジア (マレーシア72%、インド

ネシア54%、ベトナム52%)や中国(44.3%)で、高い感染率が報告されている (UNAIDS, 2008)。IDUのHIV感染の増量は、極めて短期間に拡大する点にあるとされる (古藤, 2006)。「回し打ち」とも呼ばれる静脈に薬物を注入するための注射器を他人と共有する行為は、血液感染につながりうるリスクの高い行為である。これに加えて、飲酒同様、薬物の影響下でのセックスは他のハイリスク行動 (性感染症予防をしないセックスなど) につながりやすい。男性IDUにおいては、その多くに買春経験があり、またセックスの際にコンドームを使用しない傾向が高いと指摘されることから、IDUとSWにオーバラップする問題も注目されている (UNAIDS, 2008)。

しかし、薬物使用は世界のほとんどの地域で非合法化・犯罪化されており、MSMやSWと同様の社会的状況や背景として、IDUはHIVサービスの届きにくい「第五国動向」となっている。そのため、当事者がアクセスしやすい「都居の低い」包括的実践プログラムとして実践されている「ハーム・リダクション」(Harm Reduction)が注目されている。

3. HIV予防対策とハーム・リダクション

(1) ハーム・リダクションとは何か

ハーム・リダクションの字義は、「危害」(harm)を「減らすこと」(reduction)であるが、薬物使用そのものを「危害」と見なすものではなく、最も簡便には「薬物をどうしようしたら安全に使用できるか」に特化した、教育・予防・治療の要素を含むプログラム (嶋根・吉田, 2005)と説明される。

1980年代半ばから注目されるようになった「注射器 (針・シリンジ) 交換プログラム」(Needle and Syringe Exchange Program)は、今日のHIV予防対策におけるハーム・リダクションの「代名詞」ともいえるもので、その主な目的は使用済の注射器を新しいものに交換することで「回し打ち」による血液感染を防止することにある。薬物使用の「危害」には、保健・公衆衛生学的側面と社会・経済的側面があり、前者としては、HIVやB型/C型肝炎などの血液由来の感染症、過剰摂取 (overdose) による病的状態や死亡、中毒症及び依存症などの身体的・精神的疾患などの例がある。後者としては、失業、逮捕、(家族を含む) 人間関係の悪化、医療費の増大、社会不安 (HIV感染症の拡大・薬物に絡む犯罪など) などの例がある (British Columbia Ministry of Health, 2005)。²⁾ ハーム・リダクションとは、薬物使用によって、使用する本人、家族および地域社会が受ける健康被害や社会的・経済的影響を減少させることを目的とする政策やプログラムの総称であり、薬物使用の減少はその目的に含まれないのである (The International Harm Reduction Association, 2002)。

(2) ハーム・リダクションと禁止政策

ハーム・リダクションの具体的事例としては、上記「注射器交換プログラム」の他にも、1950年代から始まったとされる「薬物代替療法」(Drug Substitution Treatment/Substitute Maintenance Therapy) や、「静注薬物施設」(Medically Supervised Injecting Centre/Supervised Injecting Facility/Safe Injection Site)、などがある³⁾。しかし、薬物使用そのものの中止を目的としないハーム・リダクションは、世界の多くの地域で実施されている薬物禁止政策に反するため、これを実施しているのは世界の10%に満たないと言われる (UNAIDS, 2004)。

特に、「薬物のない社会 (Drug Free Society)」を目指し、「不寛容 (Zero tolerance) 政策」を推進する米国では、連邦政府予算を「注射器交換プログラム」に使用することが法的で禁止されている。1980年代から2005年現在までに報告されている150~200の「注射器交換プログラム」は、すべて州政府など地方自治体レベルで

承認されたものであり、その財源は乏しく、小規模な実践に留まっている (Raymond, 2005; Wirtman, 2008)。ハーム・リダクションがもたらす利益は、ミクロ・レベル (個人・家庭など) に留まらず、メゾ・レベル (地域社会)、マクロ・レベル (社会) にも及ぶため、公衆衛生に有効な実用主義的アプローチとして、当事者コミュニティやNGOのみならず、政府当局やWHO (世界保健機関) やUNAIDS (国連エイズ合同計画) などの国際機関にも広く認知されている。なかでも特筆すべきは、UNODC (国連薬物犯罪事務所) など、利害関係が拮抗すると思われる機関の間で、2004年にWHO/UNODC/UNAIDS合同で「HIV/AIDSと薬物注射行為についての報告書」(Evidence for Action on HIV/AIDS and Injecting Drug Use) を刊行し、2008年にも「薬物使用による健康被害と社会的影響の減少: 包括的アプローチ」(“Reducing the adverse health and social consequences of drug abuse: A comprehensive approach”) のなかでモデル事業として取り上げている。

できることなら薬物使用の中止が望ましいと考えるのは、ハーム・リダクションを実現・支援する立場の多くもまた同じである。しかし、問題を地下に潜らせることは、結果として当該集団におけるHIV感染拡大を招き、ひいては国家レベルの問題を引き起こす可能性がある。薬物使用が根絶できると考えられるのは今日の世界的状況からみて非現実的であり、現実から目をそむけ、失わずに済む命、予防できる様々な「危害」を放置し続けるとして知られる米国でさえ、「注射器交換プログラム」に連邦政府予算の運用を禁じる法律を取り下げた⁴⁾。この法案“The Community AIDS and Hepatitis Prevention Bill”を提出する準備が進められているという。

(3) シドニーにおけるハーム・リダクションの実践例

「専門家」が提出する疫学的情報や、健康教育ニーズ、介入効果についての情報は、「問題」や「弊害」を定義する「力」をもつ。これらの情報は政策や世論の形成に用いられ、社会的資源 (とくに財源) の配分にも影響する (徐, 2009, 未発表)。その具体的事例を、オーストラリア最大の都市 (ニュー・サウスウェールズ州の州都) シドニーで実践されているハーム・リダクションの事例にみる。

世論調査で、国民の5人に1人が大麻の常用を「容認する」(6.6%) あるいは「容認も否認もしない」(16.6%) と回答するオーストラリアでは、14歳以上の男女の38.1%が生産に一度は違法薬物 (そのほとんどが大麻などの「ソフト・ドラッグ」) を使用した経験があり、過去12ヶ月間で使用した人の割合だけでも13.4%になる (AIHW, 2008)。HIV感染21,400件 (2004年末現在の累積) の主な感染経路は、全体の86%を占める同性間性交渉で、IDUは全感染患者数の2.4%と低く抑えられている (UNAIDS, 2006b)。しかし、1996年以降、ヘロインや

ドオピオイド使用を原因とする死亡件数の急増し、過剰摂取による死亡患者数が1992年の70人から1995年には550人、1998年には737人、1999年には1960人と急増し、大きな社会問題となった (Malkin, 2001)。薬物使用が原因で死亡するケースでは、警察の目を盗んで性的に、それも不転物が混入した粗悪な薬物を注射することが大きく影響していると指摘される。薬物使用者が多く集まる区域には、安ホテルや売春宿の一室を借りた“Shooting Gallery”や“Injecting Room”と呼ばれる「静注薬物施設」があり、こうした警察とのトラブルを避ける「隠れ家」として利用されている (Malkin, 2001)。利用料として貨幣 (あるいはそれと代わる薬物) が要求され、なおかつ様々な危険が指摘されるこうした施設とは別に、“Supervised Injecting Facility” (以下、SIF) と呼ばれる「静注薬物施設」も運営されている。SIFはNGOなどが無料や運営し、常駐するスタッフにより安全な薬物使用を指導し、過剰摂取による緊急事態への対応なども行われる。

シドニーの“red light district” (売春者が盛んな区域) として知られるキング・クロスには、1990年代より様々な「静注薬物施設」が出現し、1994年の時点では少なくとも10施設が存在が確認されていた (Rutten, et al., 1997)。しかし、もともと無認可営業だったこともあり、1995年の警察官汚職事件にからむ捜査の一環で開